

## 各区点描 ～長瀬浜区～

ここ長瀬浜は、吉田浜・大畑浜と同様に安土桃山時代にはある程度の集落が形成されていたようです。1600年代に巨理伊達家がこの地を治めるようになり、大雄寺の末寺の長徳寺ができました。1779年の古文書「風土記書出」には家数64軒、人口 319 人とあり、田や畑、塩田の広さの記述があります。

塩作りには主に農繁期前の 3, 4, 5 月頃に行いました。塩田の守り神としてしおがま鹽竈神社の分霊を勧請した鳥海鹽神社があります。しかし、江戸時代末期になると川や堀から土砂が流入し、塩田は徐々にさびれ、次第に農業に専念するようになりました。

東日本大震災以降の農地の復旧復興が進み、主な産物のイチゴは自宅近くのハウスや、吉田中学校南側の浜吉田いちご団地で栽培しています。

この地区では、昔から人が集まる行事を大切にしてきました。小学校校庭での地区民運動会や、獅子頭を格納する集落センター脇や広場での宵祭り、芋煮会、盆踊りなどです。しかし、近年は開催が難しくなっています。

スケッチは、神社鳥居脇の「丸子さつき（助産婦）記念碑」と境内奥の「古碑（古峯神社、山神）」および、県道近く「長瀬小橋」です。（絵と文：佐々木）



丸子さつき記念碑



古碑



長瀬小橋の景色

## 12・1月のイベント情報

### ◆しめ縄づくり体験教室

日にち：12月14日（土）  
時間：9時30分～12時30分頃（受付：9時より）  
場所：農村環境改善センター 多目的ホール

### ◆新春！おたのしみ演芸会

日にち：令和7年1月25日（土）  
時間：詳細は未定  
場所：農村環境改善センター 多目的ホール

※詳しくは、HP（表紙のQRコード）または電話にてお問い合わせください

## 編集長のつぶやき

今年も暑い夏でした。平年より 1.76 度高く、観測史上最高だったとか。秋は忽ち過ぎ去り、季節は冬支度を始めています。東部まち協は皆様の日々がより潤いのあるものとなりますよう、一人ひとりが参加できる企画を様々提供しております。この鳴り砂だよりは、そんな活動の一端や暮らしに役立つ知識、吉田東部地区の情報、さらにクスッと楽しくなる話のタネまでを綴っています。紙面についてのご感想や、この地区内での出来事、或いはこんなことも取り上げてほしいなど、皆様からの様々なお声をお待ちしています。（佐々木）

次回は令和7年3月1日発行予定です

# 鳴り砂だより

吉田東部地区まちづくり協議会

広報誌 No.53

12月



発行日 令和6年12月1日  
編集 吉田東部地区まちづくり協議会  
住所 巨理町吉田字大塚 185  
電話 0223-36-8831  
FAX 0223-36-8832  
E mail yosidas@town.watari.miyagi.jp  
発行責任者 福本 真



## ふれあい健康まつり～ミニ運動会～



9月29日（日）吉田体育館にて東部まち協オリジナル競技6種目を取り入れたミニ運動会を開催しました。サプライズゲストの仙台・宮城観光PRキャラクター“むすび丸”と、巨理町観光PRキャラクター“わたりん”も応援に駆け付け、長瀬小学校児童の《はねこ踊り》や吉田保育所園児の《元気いっぱい体操》と一緒に踊りました。地域の方々は子どもたちの一生懸命でかわいらしい姿に大きな拍手と声援を送っていました。秋のやわらかい日差しが差し込む体育館で、地域の皆さんと汗を流し、とても楽しい時間を過ごしました。

## ～防災豆知識～ 「キキクル」を使ってみよう

「キキクル」は気象に関する警報・注意報が気象庁から発表されたとき、警報や注意報のもとになった指数がどこでその基準に達すると予想されているかが一目でわかるように、「警報の危険度分布」として気象庁が地図で表して提供しているシステムです。大雨や洪水、土砂災害などのニュース報道に際して、テレビ画面などでも採用されているので読者の皆さんも良くご存じと思います。この情報「キキクル」は一般にも解放されているので、ここではスマートフォン（スマホ）でアクセスする手順を紹介し、このデータにアクセスするスマホのアプリはいくつかありますが、ここでは私が使っているアプリの場合を紹介し、

- ① 無料アプリ「NHK ニュース防災」をインストールします。
- ② アプリを起動すると、ニュースの初期画面になります。この画面の最下部にあるメニュー、「ニュース、天気予報、マップ、災害情報、ライブ番組配信」の中から、「マップ」を選びクリックします。
- ③ 表示する情報を選択するメニュー画面になります。
- ④ 例えば、「河川情報 中小」を選ぶと、この例の様に河川の状況を色で表す地図になります。巨理町内では、阿武隈川（大河川）の他、巨理承水路と鏡川排水路とが表示されています。画面右下の（＋）のクリックで地図の縮尺を、地図をドローして表示する位置を選択できます。左下部の「表示切替」をクリックすると、再び③のメニュー画面に戻ります。
- ⑤ は「ハザードマップ（洪水）」の例です。地図の色分けは予想される洪水の深さを表しています。
- ⑥ は能登半島大雨被災の、9月22日午前8時頃に得た能登半島周辺の中小河川状況の表示の例です。半島北部の河川が危険（紫色）の状態になっていたことがわかります。



①



②



③



④



⑤



⑥

スマホのアプリには、指定した指数がキキクルの基準に達した時に、ユーザーに知らせる機能もありますが、ここでの説明は割愛します。

また、スマホの画面が小さくて、見にくいと思われる方にはパソコンやタブレットを使って気象庁のホームページ (<http://www.ima.go.jp/>) に直接アクセスすることをお勧めします。スマホより大画面ですっと見やすくなります。  
(三品)

## 「猫の下心？なぜニャーと鳴く？」

ご存じのように、猫と犬の祖先は同じで、両方とも木の上で暮らしていました。やがて、犬は地面に降りますが、天敵に襲われるので走ることに得意となり、爪は退化します。

猫は相変わらず木の上で暮らしたので、今も高い所は得意です。やがて、両方とも可愛らしいくさゆえに人に飼われることとなります。

祖先は犬も猫も同類でしたから、吠えるのは「うー」に近い鳴き方だけらしいのですが、ここからが猫の賢い所です。一説によると、人間の行動をよく見ていた猫は、赤ん坊が「オギャー」と泣くと人がすぐに駆け寄り、やさしくあやしてくれることを学びました。そこで、「ニャーオー」と鳴けば可愛がってもらえると知り、甘えたいときや欲しいものがあると「ニャー」と鳴くようになったのだとか…。

しかし、気が向かないと一向に飼い主の言うことを聞かず、知らんぷりをするのを「ネコかぶり」と言うようになりました。

猫から学んだのではないと思いますが、私の身の回りにも猫と似たような行動をする人がいます。何か欲しいものがあると「ニャー」と鳴いてスリスリして甘えてくる？それとも爪を立ててくる？どちらにしても、爪を研ぎ澄まされないうちに、欲しいものを与えて我が身を守るのも猫から学んだ知恵かもしれニャイ。

(高倉)



## もち「餅を食べる」～巨理の方言集より～

- A 「ちょう、もづだがら、もづやいでけろー」  
 B 「もづ、ふぐれでちた。どれ、あつ、あつつつー」  
 A 「かあちゃん、あんこ、いっぺいいれでけせー」  
 B 「のどさ、しっかげねでくうんだど」



鈴木光範さん（元小学校教員・元巨理町教育長）が出版された『巨理の方言集「んだいっちゃ」』から、著者の承諾を得て転載しました。今号も面白い方言が出てきましたね～。今年の冬は「もづ、いっぺくうべ～♪」

これからも不定期でお届けしますよ～。次回もお楽しみに！

